

多摩市長

阿部 裕行 殿

多摩市街路樹よくなるプラン改定版の取り組みについて（提言）
～ 市民が誇る、美しいみどりの“みち”の実現に向けて ～

多摩市街路樹よくなるプラン改定委員会では、市民ワークショップや懇談会などを踏まえて市民意見も取り入れながら、今後の街路樹管理のあり方について2ヶ年にわたって議論を重ねてきました。その成果として「多摩市街路樹よくなるプラン改定版～美しいみどりのみちを目指して～」(原案)として形にすることが出来ました。

この度提言させていただく、街路樹よくなるプランは、単に安全の確保や景観の向上などという効果だけでなく、街路樹というツールを使用してのコミュニティの活力向上や、市民の心身の健康力の向上、そして何より不動産価値の向上と共に、多くの若い市民を多摩市に再び呼び込むための政策として、ここに提案させていただきたくします。

街路樹は街に彩りを与え、その価値を高める可能性を有しています。特に多摩市には市民が誇る様々な街路樹があります。しかし、様々な制約により多くの街路樹が多様な課題を有しており、近い将来そのための支出が過剰になる可能性があります。

原案では、現在多摩市が抱える街路樹の大径木化による様々な課題に対応する方策をまとめるとともに、今後想定される人口減少、少子高齢化社会のなかで、市固有の資源である街路樹を活かすことを通して、ブランド力を向上させ・資産価値を高めていくことが極めて重要であると結論付けています。

多くの自治体が財政的問題を抱え、生活インフラの維持管理や人材の確保と育成に必要な財源すら不足する状況にあります。そして、少子化、高齢の深刻化による悲観的な未来が喧伝され、多くの人々はそれらがあたかも避けられない運命のような錯覚に陥っています。私たちの世代は、このような予測に対して負の遺産を背負うのではなく、知恵や工夫によって明るい未来へと変えていくことができることを示さなければなりません。

先進的ニュータウンとして造られた多摩市が果たしてきた役割を、国や東京都の制約に縛られず、新しい人財、財源を求め、それを街の力としていく、先進的な街路樹まちづくりの取り組みを行うことが可能であると考えます。

市長公約である「健幸まちづくり」の推進や「シビックプライド」の醸成に資するものと考え、改定委員会として、特に資産価値の向上の観点から、今後の街路樹管理のあり方について、以下の提言を添えて原案を提出いたします。

記

- 1 市民が街のみどりに興味・関心を高め、街路樹や遊歩道への関わりを強めるための取り組みの支援
->単なる労働力の確保ではなく、街路樹の計画などにも積極的に関わることができると良いと思います。
- 2 次世代（子供たち）が街のみどりに興味・関心を高めるための取り組みの支援
->子供向けのイベントなど。単なる勉強会ではなく、街路樹の計画にも積極的に関わり、自分の街、ふるさととして将来も関わっていきたくと思ってもらえれば良いと思います。

3 人財、財源確保に向けた取り組みの推進

->ネーミングライツ、スポンサー、寄付制度、アドプト制度の拡大、森林環境税の活用などのトライアルをしていただきたいと思います。

4 部局や立場の垣根を越えた統合的な取り組みの支援

->道路交通課だけでなく、公園課、都市計画課等との連携の推進。市民や企業などとの連携。中長期的で、街の資産価値を高めるための街路樹更新計画などを考え、現在の自転車操業的な対応から脱却する。

最後に、街路樹よくなるプラン改定版ならびに、本提言が、多摩市のまちづくりに寄与することを願うとともに、今後も、何かしらの形で関わっていただけると幸いです。

平成31年2月6日

多摩市街路樹よくなるプラン改定委員会

委員長

池邊 ことみ